



日本赤十字社山口県支部災害救助訓練（放射線防護服の着用訓練）

昨年の東日本大震災時の日本赤十字社の救護活動の記憶もまだ鮮明ですが、出動の機会がないことを祈りながら、万が一に備え、日本赤十字社山口県支部では毎年災害救助訓練を行っています。

### 病院の理念

- (1) 私たちは、「人道・博愛・奉仕」の赤十字精神を基本に生きていることの価値と喜びを追求する病院づくりをします。
- (2) 私たちは、思いやりの心を忘れず、皆様の健康へのみちを全力で支援します。
- (3) 私たちは、地域に貢献し、安心と信頼が得られる社会をめざします。

### 基本方針

- (1) 患者さまならびに職員の生きがいを尊重し、権利を擁護する。
- (2) 患者さまのプライバシー保護に努める。
- (3) 療養病棟では、高齢・認知症・難病等の患者さまに配慮する。
- (4) 医療社会事業を通じて、地域住民の皆さまの健康づくりを支援する。
- (5) 「健診・救急・高齢者医療」を三本柱とし、地域の保健・医療・福祉機関との連携を推進する。
- (6) 医療の質の向上と安全管理に努め、全人的医療をめざす。
- (7) 医療記録を適正に管理し、規定にしたがって開示する。

## 日本赤十字社山口県支部災害救助訓練が行われました！



ご存知の方もいらっしゃると思いますが、これまでも、日本赤十字社の活動のひとつに災害救護活動もありました。しかしながら昨年にとこった未曾有の大災害“東日本大震災”での救護班などの災害救護活動は、図らずも皆様に活動の内容を周知することになりました。

その活動を円滑に実施するために日本赤十字社山口県支部では、毎年当院と山口赤十字病院、山口県赤十字血液センター合同で、災害救護訓練を行っており、今年も2月14日～15日の日程で、国立山口徳地青少年自然の家で実施

されました。小野田赤十字病院からは、薬剤師・事務主事各1名、看護師3名の計5人で参加しました。

今回は、NBC災害(nuclear(核) biological(生物の) chemical(科学の); 原発事故のような核による災害等)や国内型緊急対応ユニット(domestic Emergency Response Unit; dERU)の操



自動昇降コンテナとトラック

作方法等の訓練を行いました。

dERUとは仮設診療所設備やそれを扱う職員等の総称で、資機材の総重量は約3トンあります。麻酔、抗生物質などの医薬品、エア Tent 1張、外科用具などの医療資機材のほか、診察台、簡易ベッド、担架、貯水タンク等が積載されています。要員は訓練を受けた



着用した放射線防護服

医師、看護師長、看護師、助産師、薬剤師などの医療要員及び事務職員(基本構成14人)から構成されます。同ユニットは、14人の職員で約1時間で立ち上げ、装備された医療資機材により1日150人程度の軽症・中等症程度の傷病者に対して3日間の治療が可能となりますが、被災地ではたくさんの資機材を短時間で立ち上げ医療救護活動を行う必要があります。また、その後は、被災状況により、医療資機材を補給することにより被災者に対する治療を継続することができます。現在中四国地方で3基整備されており、今回は広島県支部から借りて訓練を行いました。



仮設救護所となるエア Tent

東日本大震災から約1年経つということもあり、参加した職員は真剣に取り組んでいました。

この訓練が実践となるとき、それは災害、それも大規模なものが起こったということ。そのようなことがないことを祈りつつ、訓練を終えました。



エア Tent 内の装備を準備中

# 身体のおはなし



食べること…それは生きることと直結し、生命あるものにとってはとても重要な行動の一環です。今回はその食べる行為に関連した「誤嚥性肺炎」のお話です。

## 1. まず誤嚥（ごえん）とは、食べ物や異物が食道ではなく気管内に入ってしまう現象です。

病気や加齢に伴い飲み込み機能が徐々に低下し、それが起因となり口腔内の内容物・細菌・逆流した胃液が気管に入り、結果として発症する病気が「誤嚥性肺炎」です。寝ている間に発症することも多く、殊に基礎疾患をもつ全身状態の低下した方はいったん発症すると治療は困難で、死亡率も高いのが現状です。

当然、健常者でも誤嚥はしますが、吐き出そうとする動作（咳やむせ）により気管から内容物を出すよう反応し、さらにたとえ誤って気管に細菌が入っても体力や抵抗力・免疫力により細菌を駆除できるので、健常者の場合、生活していく上でさほど影響はありません。

## 2. 症状

一般的には肺炎と同様に発熱、咳、痰（たん）、呼吸困難、胸痛などを主な症状とします。

しかし高齢者の場合、38℃以上の高熱を発する体温の上昇が現れない、あっても微熱程度のものが少なく、主症状とされているそれら訴えがはっきりしないこともあります。

それに対して、呼吸数は増え、皮膚や舌の乾燥、すなわち脱水状態にあることが多いといわれ、さらに「何となく元気がない」「食欲がない」「体重が減る」「声がかすれる」といった日常生活行為に変化がみられます。

## 3. 日常生活での注意

### ①口腔の清潔に努める

歯磨きにより口の中を清潔にし、細菌を減らします。また、食べたり飲み込んだりすることによって機能を回復させることも大切です。口腔の細菌除去と機能回復がケアの両輪となり、誤嚥性肺炎を予防します。



### ②栄養状態を良好にする

体の抵抗力低下に伴いこの病気は発症しやすくなります。日頃から口から食事をとり栄養状態を良好に保つことによって、誤嚥性肺炎を予防するも大切です。

### ③食事の介助と食後の姿勢に留意する

誤嚥を引き起こしやすい方の食事介助では座位または上半身をやや高くした体位とし、少量ずつゆっくり時間をかけ、嚥下能力に合わせて援助することが必要です。

さらにパサパサした食べ物は飲み込みにくく、お茶のような水分をむせることが多々ありますので、食べ物は適度に水分を含んだもの、場合によってはペースト状のもの、さらに水分はトロミ剤を付加することが好ましいです。

食道裂孔ヘルニアのある患者さんや、お腹が張って嘔吐をきたしやすい方では、日常より排便のコントロールを行い、食後半座位の保持などの工夫により腹圧をかけないようにし、食物残渣の胃食道逆流や嘔吐を防止することも重ねて大切になります。

**ご不明な点や気になることがありましたらまずは医師に相談をされて下さい。**

# 教えて小野田赤十字病院のこと

第 11 回は、12 月の番外編「医療安全推進週間」のときに触れました医療安全推進室について、ご紹介します。

小野田赤十字病院では、医療事故を無くし、患者様が安心して安全な医療を受けられる環境を整えるために、医療安全推進室を設置し、平成 19 年 2 月 1 日より専従の医療安全管理者（専従リスクマネージャー）をおいています。その対策は、それぞれの医療従事者の個人レベルでの事故防止対策と、医療施設全体の組織的な事故防止対策のふたつの対策を推し進めることです。

具体的には、医療安全管理委員会及び各部門 1 名以上のサブ・リスクマネージャーと以下のことを行っています。

1. インシデント（いわゆる「ヒヤリ・ハット」）・アクシデントレポートの分析及び事故対策の立案
2. 医療事故の予防対策の検討及び推進
3. 発生した医療事故の再発防止対策等の検討
4. 医療事故に関する職員の教育・研修
5. 医療事故等の情報交換
6. 医療安全マニュアルの作成・変更 など。



当院では、院長のリーダーシップのもと、全職員がそれぞれの立場からこの問題に取り組み、患者の安全を確保しつつ必要な医療が提供できるよう積極的に取り組んでいます。

## 認定看護師だより

摂食・嚥下障害看護認定看護師としての、現在の院外活動状況について

山口県介護福祉士会、看護協会小野田支部など、依頼をうけた講義などを行っています。また、新しい情報を得るために、学会や研修会などに参加しています。



## 節分



2 月 3 日は節分でしたね。皆様は豆まきや、恵方巻きを食べたりしましたでしょうか。

節分は、季節の分かれ目の意味で、元々は『立春』『立夏』『立秋』『立冬』のそれぞれの前日をさしています。節分が特に立春の前日をさすようになった由来は、冬から春になる時期を一年の境とし、現在の大晦日と同じように考えられていたためだそうです。

2 病棟でも 2 月の 8 日に節分の豆まきを患者様としました。ちょっと変わった顔色の鬼めがけて楽しそうに豆を投げられ、その後は鬼と一緒にゲームなどをして楽しんでおられました。





# 外来診療担当医表

(都合で交代・休診することがあります。ご了承下さい。)

平成24年3月

## 3月 行事予定

診療科(受付時間)		曜日		月	火	水	木	金
		時	診					
内科	8:30~	1診	藤部 香里	藤部 香里	御厨 邦子	藤部 香里	名尾 朋子	
	11:30	2診	御厨 邦子	和田 一成	江本 政広	和田 一成	島袋 明子	
		3診						
外科	8:30~11:30		友近 忍	佐藤 智充	水田 英司	佐藤 智充	友近 忍	
皮膚科	13:00~14:45			武藤 正彦				
	13:30~16:30						浪花 研一郎	
神経内科	14:00~16:30		川井 元晴					
	14:00~15:30						野垣 宏	
神経科	8:30~11:30					秋元 隆志		
眼科	8:30~11:30			萩田 勝彦			萩田 勝彦	
整形外科	15:00~17:00		3月7日(水)、15日(木)、22日(木)、29日(木)					

- 7日 移動図書館  
ひなまつり(老健)
- 12日 小鳩会 (老健)
- 14日 クレリック盤レコード鑑賞会  
(老健)
- 21日 防火訓練 13:30~  
誕生日会 (老健)
- 28日 琴奏郁の会(大正琴)  
(老健)

### <実習>

- 宇部ボランティア大学  
(介護) (2月21日)~13日  
(看護) (2月27日)~9日



## 先月のボランティア(1月21日~2月20日)

- 2月14日 小鳩会(民生委員ボランティア)(3名)
- 2月15日 鼓楽の会(銭太鼓)(10名)
- 毎週ボランティア 一樹会(約10名)

季節的に、体調不良となりやすいため、一部予定変更させていただきました。

ボランティアの皆様、ありがとうございました。

### \*\*\* 編集後記 \*\*\*

- ・朝のジョギングが日課なので雪の積もりそうな前夜はワクワクします。寒さのあまり、汗と鼻水と涙とよだれを垂らしつつ、真っ白な地面をザクザク走る。また少しだけ積もって欲しい。 益成
- ・卒業式のシーズンです。又1つの階段をのぼる若者たちに... フレーフレッ! 竹岡
- ・だんだん暖かくなってきました。そろそろ花粉が舞っています。 坂本
- ・最近、ゲームをしようと思ってもすぐに寝てしまう。昔は何時間でもしていたのに... 小林
- ・Pleasure is the source of pain. M. S
- ・少し暖かくなったと思えば、急に寒くなったり... 春が待ち遠しいです。 有間
- ・現愛車は、性能がよすぎて(?!)、雪の日はいつもより余計に回ってしまう危険が...。しかし理由あってしばらく代車で過ごしてました。おかげさまで、安全に来ることができました。 大貫

# 今月の料理

## 春キャベツの浅漬け

◆材料◆

### 作り方



素 材	分 量 (4人分)
春キャベツ	200g
にんじん	3センチ長さ
昆布(3センチ角)	1枚
赤唐辛子	1本
塩	小さじ1

- ① キャベツは一口大のざく切りに、にんじんは細切りにする。
- ② 赤唐辛子は二つに切って種を除く。
- ③ ポリ袋に①と昆布を入れて、塩を加える。袋の口を軽く握って振り塩を全体にまぶす。
- ④ 袋をふたつに折り、口を下にしてレンジ600Wで40秒加熱する。袋の外から軽くもんで器に盛る。

### ～高血圧予防に効果のあるアルギニン酸～

昆布には水溶性食物繊維の「アルギニン酸」が豊富です。昆布特有のヌルヌルの正体で、血圧の上昇を防ぐ働きがあります。よって高血圧・動脈硬化・脳卒中といった生活習慣病予防に貢献します・

### ～東日本大震災から1年～

昨年3月11日に発生した東日本大震災から、もう1年になろうとしています。この未曾有の大災害により、日本赤十字社の名を多くの方が耳にされたことと思います。災害直後からの救護やその後のこころのケアだけでなく、生活の支援のための物資のセットの寄贈、保健・医療サービスの支援や仮設住宅の方々への支援、子どもたちへの支援、高齢者・障害者への支援などを続けています。復興にはまだまだ時間と費用とがかかります。

引き続き皆様のご理解とご支援をお願いいたします。



ベッドの贈呈式の様子

ORC (オー・アール・シー) 2012年3月号

平成24年 3月 1日 発行

発行所 山陽小野田市大字小野田字植松3700

小野田赤十字病院

発行人 水田 英司